

調査速報

外食需要動向(2023年11月)

都心での宴会需要が回復する一方、日常の外食では低価格業態の選択が強まり、需要は二極化

主任研究員

佐橋 官

045-225-2375

sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2023年11月の実質外食支出金額(季調済)は、関東地方で前月比2.1%増となったものの、全国で見ると同2.8%減となった。
- 支出額の品目別内訳をみると、飲酒代が増加していることから、関東地方(主に東京都心と考えられる)を中心に宴会需要が回復していると考えられる。他方、日常の外食は支出を抑制する動きが強くなっているとみる。
- 外食産業の客数動向をみると、値下げを断行した低価格帯のファミリーレストランの業態で客数が高い伸びとなった。コスト上昇が続く中でも、価格競争が激化していることが窺われる。

1. 11月の実質外食支出金額は全国で前月比マイナス

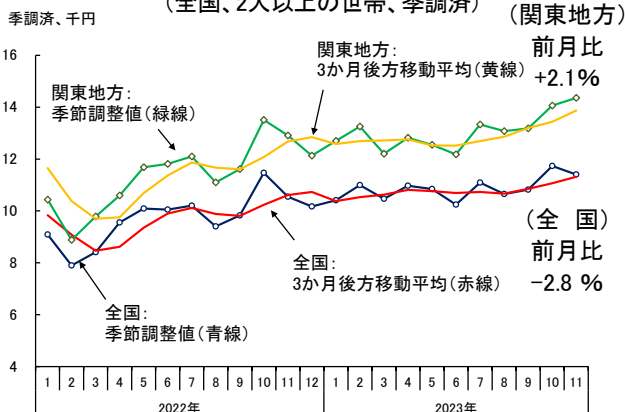
総務省「家計調査」に基づく2023年11月の1世帯あたり実質外食支出金額(季節調整済)は、全国が前月比2.8%減(前年同月比10.1%増)、関東地方が前月比2.1%増(前年同月比11.2%増)となった(図表1)。外食支出額の品目別内訳をみると、全国においても関東地方においても、飲食店での飲酒代が外食支出全体の押し上げ要因となっている。企業等が集中する関東地方(主に東京都心と考えられる)を中心に忘年会など非日常の外食需要の回復が外食支出金額を押し上げる要因になっている。ただし、全国の支出金額の減少が示すように日常的な外食については支出額が抑制されているとみる。家計は外食シーンに応じて支出にメリハリをつけていると考えられる。

2. 外食産業における客単価の上昇率は夏場に比べて鈍化

一般社団法人日本フードサービス協会が集計している2023年11月の外食産業売上高(名目値)は前年同月比9.8%増となった(図表2)。11月の外食産業全体の客数の伸び(同4.5%増)は10月(同3.6%増)に比べて拡大(良化)した。一方で客単価の上昇率(同5.1%増)は2023年の年初や夏場に比べて鈍化している。生活必需品を中心とした物価上昇を背景に消費者の節約志向は高まっており、外食チェーン間の価格競争は激化していると言わねばならない。

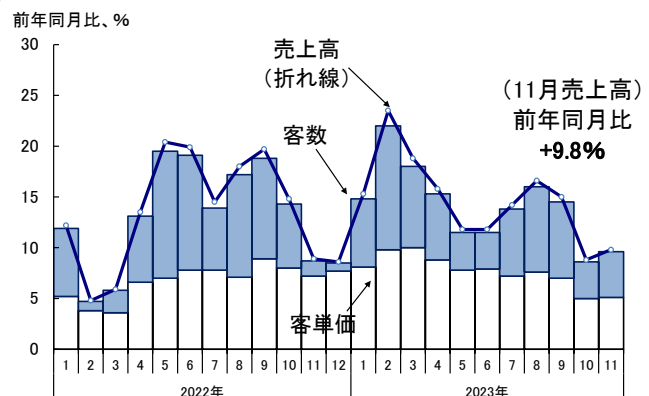
図表1 全国の実質外食支出金額は前月比マイナス

(全国、2人以上の世帯、季調済) (関東地方)



図表2 外食産業における客単価の伸びが鈍化

(全国、全店、前年同月比)



3. 中華・洋風ファミリーレストランでは客数を確保するために値下げを断行するチェーンが登場

2023年11月の業態別の客数をみると、ファミリーレストラン業態の中でも中華（前年同月比10.9%増）と洋風（同9.6%増）で高い伸びとなった。ファミリーレストラン業態では「幸楽苑」が10月から、「ガスト」が11月から、それぞれ一部メニューの値下げを実施している。大手チェーンの中でも相対的に低価格帯で事業を展開している2社の値下げは、マスコミなどで取り上げられ、結果的に業態全体の客数の押し上げ要因になったとみられる。

今回の低価格業態2社の値下げの動きは、値上げによって客離れが生じていたことが大きい。例えば、「幸楽苑」の既存店客数は2022年9月以降、2023年3月を除いて2023年7月まで大きく前年割れが続いており、競合する「日高屋」に対して集客で大きく劣っていた（同期間の「日高屋」の既存店客数は前年同期比1割以上の増加トレンド）。低価格が「売り」であった「幸楽苑」が、「日高屋」よりもメニュー価格が割高となり、集客が厳しくなっていたと考えられる。価格競争が激化する中で、特に低価格業態での値上げが難しいことを示している事例となろう。

2024年は、家計の節約志向の高まりによって、消費者が相対的に安いメニューを選択する動きや、より低価格の業態に利用店舗を変える動きが強まると考えられる。ただし、値下げや価格据え置きの方で、食事の品質を下げたり、容量を減らしたりすれば、顧客の信頼を損ねることにもなりかねない。外食チェーンはコスト増加の累積分を含めて価格への転嫁を進める一方で、同業他社との競争条件や顧客の懐具合を見極めながら価格設定をすることが必要になる。

図表 3 外食産業売上高(2023 年 11 月、全国、全店)

(前年同月比増減率)				
業 態	店舗数	売上高	客数	客単価
全 体	36,658	9.8%	4.5%	5.1%
ファストフード	21,544	8.0%	2.8%	5.1%
洋 風	6,552	5.2%	-1.5%	6.7%
和 風	5,121	14.0%	9.6%	4.0%
麺 類	3,148	13.1%	5.4%	7.3%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,303	2.9%	-2.2%	5.2%
その他	2,420	14.5%	8.1%	5.9%
ファミリーレストラン	10,288	12.3%	8.9%	3.1%
洋 風	5,137	12.1%	9.6%	2.1%
和 風	2,517	11.7%	6.0%	5.4%
中 華	1,226	14.6%	10.9%	3.3%
焼き肉	1,408	11.4%	4.9%	6.3%
パブ・居酒屋	1,736	11.4%	5.4%	5.6%
パブ・ビアホール	386	13.9%	6.7%	6.8%
居酒屋	1,350	10.1%	4.7%	5.2%
ディナーレストラン	967	13.6%	10.1%	3.2%
喫茶	1,902	13.9%	5.3%	8.2%
その他	221	10.3%	5.4%	4.7%

注 1: 全店とは、既存店と新規店の合計。
注 2: 売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
注 3: 売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。
出所: 一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

本レポートは、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると判断した情報に基づいて作成したものです。その正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。ご利用の際は、最新の情報をご確認くださいようお願いいたします。